

# 文章の結束性について

## — 接続関係の分析からみた学習者の問題点 —

黒岩 浩美

### 要 旨

ある主題のもとに、その文脈を保ちつつ文章を展開していく時の問題の1つに、隣りあった文の接続関係がある。すなわち、情報の連続性を保証する結束性が問題となる。本稿では、接続関係を支える言語形式に着目して、日本語中級学習者の作文を分析することによって、学習者の問題点の把握を試みた。その結果、接続語句の使い方や同義語、類義語句の反復についての指導が必要であることがわかった。また、文と文の接続だけではなく、段落の展開についての指導の必要のあることが、改めてわかった。

[キーワード] 連続関係 結束性 同義、類義語句の反復  
接続語句 意味論的解釈

### Discourse Cohesion :

#### problems for learners from the perspective of analysis of connecting sentences

Kuroiwa, Hiromi

*One of the problems facing intermediate Japanese learners in the development of texts on given topics is how to connect neighboring sentences while maintaining context. In other words, the cohesion guaranteeing the unity of information in the discourse is problematic. In this paper, an attempt is made to gain a grasp of the problems involved through an analysis of the compositions of intermediate Japanese learners, focusing on the linguistic forms which support continuity. (The forms were divided into six categories and compositions were examined to determine whether forms were found in both sentences in sentence pairs.) The results show that learners need guidance in the repetition of synonyms and the use of conjunctions, and reemphasize the idea that instruction is necessary not only in the connection of pairs of sentences but also in the development of paragraphs.*

## 1. はじめに

日本語の中級学習者の作文の問題の1つは、文章の論理的展開である。文の連続によって成り立つ文章とは、「統一した文脈を保ちつつ、全体として完結した言語形式」<sup>1)</sup>である。

文脈は文と文を連結させることによって展開していくが、この接続がスムーズに行われないと、文章はわかりにくいものになってしまう。これは、すなわちテキスト言語学の立場で言い換えるなら、文のさらに上になつ言語的単位であるテキスト（文章）のテキスト性<sup>2)</sup>を支える、「結束性」<sup>3)</sup>の問題と言えよう。

文の接続関係において、それぞれの言語は言語的手段を持っている。日本語でも接続関係を示す言語形式がいくつか分類されている。それらを手がかりにして、実際の文章がどのように文脈を展開させていくのか、分析によってその姿を捉えることは指導上必要であると考えられる。そこで、まず日本語学習者の作文を実際に分析することにより、文の接続における結束性という観点からの問題点を明らかにし、指導への手がかりを探ってみたい。文章の分析には、文法論的文章論<sup>4)</sup>による分析を行うこととする。

## 2. 文章の分析について

### 2. 1 文法論的文章論による作文の分析

時枝誠記（1950）が、従来の文法研究の単位として認められている「語」「文」に「文章」を加え、文法研究の一領域として設定して以来<sup>5)</sup>、文章論はさまざまな形で発展してきた。永野賢（1989）はこれをさらに進めて、文章自体を文法論の対象として「文法論的文章論」を唱え、文章の分析、考察を試みた。この文法論的文章論の特性について永野は、「語論、文論に比べて、より具体性に即さなければならないという意味で、『意味論的文法論』である。しかし、文法論であるから言語形式に着目して文章構造を解明するのが目的である。」と『文章論総説』のなかで述べている<sup>6)</sup>。

金岡孝（1988）も、文章の分析には、語論、文論とは違った意味的又は「解釈的作業」<sup>7)</sup>が必要であると述べている。

森田良行（1989）も文の接続に関して、後続文を、先行文の叙述内容の展開の結果として捉えて「…その文の流れを受けて次にどのような文を繋いでいくかは、その箇所に意味論上適切な文の許容範囲というものが設定され、その範囲に収まる文を表現者は作文して発話する<sup>8)</sup>。」と述べている。

これは、文法的語形式としての表現文型と、意味的なものと両面考えられるということであろう。

国語教育ではすでに、読解、作文教育において文法論的文章論を取り入れた指導の効果が報告されている<sup>9)</sup>。ここでは、永野が文章分析は読解指導の「助け」、であり作文表現にその成果が「反映する」と考えていることが、さらに積極的にその後指導に取り入れられた。例えば、作文が書けない、または作文が嫌いな子供に対して推敲段階において、永野の提唱した主要語句の連鎖<sup>10)</sup>を導入した作文指導を行ってその成果を発表している。

日本語教育においても、読解、作文の指導に、文章論の観点からの文章分析は有効であると考え

られる。

## 2. 2 連鎖関係を示す言語形式の分類

さて、具体的に文と文をつなぐ言語形式については、さまざまな形でその分類が行われている。

永野は、読解、作文指導に文章論を役立てるための文章分析の観点の1つとして連鎖関係を提示し、それを示す言語形式として、1) 接続語句 2) 指示語 3) 助詞、助動詞 4) 同語反復、言い換え 5) 応答詞など、をあげている。これは、市川孝(1978)の文をつなぐ形式とほぼ一致する<sup>11)</sup>。

そこで、本稿ではその2つの分類を参考にして、連鎖関係を示す言語形式を次のように分類した。まず、全体の大きな枠組みを市川に従って、a) 前後の文を論理的に関係づける形式、b) 前文の内容を後文の中に持ち込んで、前後を内容的に関係づける形式、c) その他の形式、の3つに分ける。

a) b) c)、のそれぞれの具体的な形式は次のとおりである。

a) 前後の文を論理的に関係づける言語形式

・接続語句

接続詞、接続詞的機能をもつ副詞、名詞(例: いわんや、現に、一方など)、接続詞的に用いられる連語(例: そのため、それに対し、だからといって、など)

b) 前文の内容を後文の内容に持ち込んで、前後を内容的に関係づける形式

・指示語(こそあど、を含め指示の役目を果たす語句)

・同語反復(特殊な場合としての省略)、同義、類義語句の反復<sup>12)</sup>

c) その他

前後関係を表す表現、語句

・助詞、助動詞、名詞(「は」「も」「さえ」「から」「のだ」次は)

・応答詞

前後関係を説明する表現

・そのような理由で、この点からみて、そのことによって、とくに、など

・用語上の親近性(例: この問題はなかなかむずかしい。わたしには解けそうもない)

このような分類に基づいた分析では、永野が問題点として述べているように「個人個人の主観的な判断によって」解釈の相違があることは否めない。これは先に述べたように、文章論による文章分析の意味的、解釈的作業の側面と考えられる。

この分類は、飯島昭治(1986)<sup>13)</sup>がテキストの構造的要因として挙げた、結束性の下位分類とはほぼ重なると思われる。すなわち、池上が文法的、語彙的な手段として分類したものを飯島が組みかえた表<sup>14)</sup>の、論理的関係にあたるものが、c) であると考えられる。

### 3. 分析と考察

#### 3. 1. 分析の対象

中級日本語学習者の作文として、筑波大学留学生センター1993年度前期補講コースの技能別作文Ⅱの学生及び東京国際大学の留学生(1年生)の作文を選んだ。授業の中で書いた「わたしの出会った日本」という題名の400字から700字程度の作文が分析対象である。

分析を行った作文について、学習者の接続関係の実態を表で捉え、その問題点を考察する。

それに先立って、新聞記事の中から長さとその内容を考慮して、「朝日新聞」の「天声人語」(700字程度)と「窓」(750字程度)、を比較の為に分析して、多くの読み手を対象とした文章の接続関係を見ておくこととする。

#### 3. 2 方法

分析にあたって、次の方法をとることとする。

接続関係を示す言語形式の見られない文には、後続文の文頭に×、使われている言語形式に○、使われているが正しくないものに△、省略されている語句については( )を用いる。また、反復の場合、1文あるいはそれ以上前の文の語句の反復は○の中に前の文番号を記入する。

学習者の作文の誤りは、アンダーライン、( )で訂正することとする。

#### 3. 3 新聞記事の分析

##### 3. 3. 1 「天声人語 7月31日」

①細川護熙さんが首相になるのをどう思うか、と報道機関が街の人々に意見を聞いている。②賛意を表しながら「もっと先の方がよかったかも知れないですね」などと、若さ、経験の無さへの懸念を表明する人が多い。

③よく言えば慎重さの現れだが、なんともそういう発言を聞くうちに不思議に思い始めた。④第1の疑念。⑤人々は55年体制に慣らされ、毒され、その意識から抜け出せずにいるのではないか。⑥もう1つの疑問。⑦ことによると、日本人には、本来、若さと経験の無さを買う度量がないのだろうか。

⑧55年体制のもとでは独特の慣行が出来上がっていた。⑨当選回数がある数に達しなければ大臣になれず、政府や党の要職を経験していなければ党総裁や首相になれない。⑩見識や力量だけで閣僚になれるという印象ではなかった。

⑪いま、当選1回の代議士が首相になり、派閥の長でない人が自民党総裁になるという激変の時である。⑫若くて経験の無い人が新しい道を踏み出そうとする時に、人々の意識の回路は、依然、旧来の秩序や選考方法を求める方向に作用するのだろうか。

⑬制度は違うが連想するのは米国の指導者選びである。⑭初めて大統領になる者は、当然のことだが常に新人だ。⑮就任後しばらくは、いわゆるオン・ザ・ジョブトレーニング、つまり仕事に就

いて実地に訓練する方式でその任務を覚えていく。

⑩無経験は当たり前、若さは歓迎すべきこと、問題は資質である。⑪就任後の100日間ほどは報道機関も一般の人も温かく見守り、文句を言うのはそれからという慣行ができています。⑫社会全体が、若さと、挑戦の意欲や努力について寛容な感じである。

⑬「55年体制」ならぬ「55歳体制」の始まりだ。⑭細川さんは55歳、自民党総裁の河野洋平さんは56歳。⑮「論戦をしたい」と河野さんが挑んでいる。⑯存分な戦いぶりを見るところ。

[接続関係図]

| 文番号 | 接続語句 | 指示語   | 同語反復       | 同義、類義語句の反復 | 助詞、助動詞など | 前後関係    |
|-----|------|-------|------------|------------|----------|---------|
| ①   |      |       |            |            |          |         |
| ②   |      |       |            | ○賛意を表す     |          |         |
| ③   |      | ○そういう |            |            |          |         |
| ④   |      |       |            |            |          | ○第1の    |
| ⑤   |      |       |            |            |          | ○～ないか   |
| ⑥   |      |       |            |            |          | ○もう1つの  |
| ⑦   |      |       |            |            |          | ○～だろうか  |
| ⑧   |      |       |            | ⑤55年体制     |          |         |
| ⑨   |      |       |            | ○当選回数      |          |         |
| ⑩   |      |       |            | ○閣僚        |          |         |
| ⑪   |      |       |            |            |          | ○いま     |
| ⑫   |      |       |            | ○若くて経験のない人 |          |         |
| ⑬   |      |       |            |            |          | ○連想するのは |
| ⑭   |      |       |            | ○大統領になる者   |          |         |
| ⑮   |      |       | ○(大統領になる者) |            |          |         |
| ⑯   |      |       |            | ○無経験       |          |         |
| ⑰   |      |       |            | ○就任後100日   |          |         |
| ⑱   |      |       |            | ○社会全体      |          |         |
| ⑲   |      |       |            | ⑧55年体制     |          |         |
| ⑳   |      |       |            | ○55歳、56歳   |          |         |
| ㉑   |      |       | ○(河野さん)    |            |          |         |
| ㉒   |      |       |            | ○闘いぶり      |          |         |

[考察]

第3段落の⑧文は、第2段落全体を受けて55年体制を説明している。第5段落の⑬文はそれまでの日本とのアメリカの場合の比較である。最後の第7段落は、55年体制と言う言葉によって6段落までとつなげてまとめている。あとの文章は、隣りあった1文1文もよく結束性が保たれているが、各段落の最初の文が、それまでのいくつかの文を受けて、論理的に文脈を展開している。

### 3. 3. 2 「窓」仲良しクラブ 8月23日

①日本人の仲間同士のものわकारの良さといったものが、経済システムの改革をさまたげているのではないか。

②東洋英和女学院大の辻村江太郎教授の産業構造審議会報告の前書きを読んで、そう思った。

③農産物の輸入自由化を審議する会合での、こんな経験を紹介している。

④ある女性評論家が「生活費の中でお米の費用などたかがしれたもの。⑤少しぐらい高くても、農家の人たちのくらしが立つのなら、それでいいじゃないの」と言い放ったところ、出席者の多数が「そんなもんだね」と賛成した。

⑥教授自身も、「日本は本当に仲良しクラブなんだ」と妙に納得してしまったという。

⑦あとで、「これが笑い事でない」ことに気付いた。⑧そして、日本の経済社会の問題は「なかよしクラブ日本が今まで通りでよいか」に集約されるとみる。

⑨そうだと思う。⑩私たちは、タクシーや郵便などの公共料金引き上げにしろ、理髪やレストランでの食事の値上げにしろ、それに従事している人たちを思い浮かべて「まあ、いいか」と容認しがちだ。

⑪日本の消費者は、低生産的な農業、流通、サービスなどの分野に対して「寛容」すぎるのではないか。⑫だから行政の手厚い保護を許して、非効率な産業を抱え込んでしまった。

⑬外国からの批判の強い系列取引や談合体質にも、同じことがいえる。⑭仲間うちだけで商売をし、外国企業をのけものにするから、閉鎖性が非難される。

⑮1ドル=100円時代に突入した日本経済の課題は、市場を開放し、低生産部門にも競走原理をもちこむことである。

⑯これらの産業の体質改善に成功すれば、内外価格差も解消され、国内での円の使いでが高まるはずだ。

⑰仲間だけにやさしい気風を改められるだろうか。

#### [接続関係図]

| 文番号 | 接続語句 | 指示語    | 同語反復 | 同義、類義語句の反復      | 助詞、助動詞など | 前後関係 |
|-----|------|--------|------|-----------------|----------|------|
| ①   |      |        |      |                 |          |      |
| ②   |      | ○そう思った |      |                 |          |      |
| ③   |      | ○こんな経験 |      | ○審議する会合         |          |      |
| ④   |      |        |      |                 |          |      |
| ⑤   |      |        |      | ○少しぐらい高くても      |          |      |
| ⑥   |      |        |      |                 | ○教授自身も   |      |
| ⑦   | ○あとで |        |      |                 |          |      |
| ⑧   | ○そして |        |      |                 |          |      |
| ⑨   |      | ○そう    |      |                 |          |      |
| ⑩   |      |        |      | ○「まあいいか」と容認しがちだ |          |      |

|   |      |         |  |            |         |             |
|---|------|---------|--|------------|---------|-------------|
| ⑪ |      |         |  | ○寛容すぎる     |         |             |
| ⑫ | ○だから |         |  |            |         |             |
| ⑬ |      |         |  |            | ○談合体質にも |             |
| ⑭ |      |         |  | ⑬全体        |         |             |
| ⑮ |      |         |  |            |         | ○市場を開放、競争原理 |
| ⑯ |      | ○これらの産業 |  |            |         |             |
| ⑰ |      |         |  | ○仲間にだけやさしい |         |             |

[考察]

③文の指示語こんな経験、は後方照応で④文と結束性を保っている。⑨文の指示語、そうだと思う、は⑧文の内容全体であると考え。⑩文の、容認しがちだ、は1つ前の⑧文の、仲良しクラブ 日本、の内容的な関連語句であるが、ややわかりにくい感じもする。⑭文は、⑬文全体の説明となっている。⑮文は、⑭文の閉鎖性が非難、に対する解決策の提案となっている。最後の⑰文は、直接前の⑯文とつながっていないが、仲間にやさしい、という語句を使って全体のしめくりをしている。これは題名である「仲良しクラブ」によって、文章全体の文脈の結束性が保たれていると考える。

3. 4 日本語学習者の分析

3. 4. 1 学習者A (韓国)

①日本へ来てもう1年半がすぎたところ (だが)、日本は私の第2の故郷のような気がする。②まだ日本の習慣はもちろん、日本語さえ上手に話せないが、こんな感じになるのは怪しい (不思議な) ことだ。③しかし、こうなったのは適当な (×) 理由がある。

④はじめに、日本人の親切さと礼儀正しいこと (正しさ) だと思う。⑤人と人が初めて出会って、相手の人柄を判断するのは礼儀正しい言葉づかいだと思う。⑥日本人は、こんな点ではどの国より優れていると思う。⑦やさしい言葉づかいで、親切な行動こそ相手の心を自分へひっぱりさせる (ひきつける) だろう。⑧私も日本人のやさしさに大変感心したものだ。

⑨次に、挙げられるのは、日本人の勤勉な国民性だ。⑩働きばちだと呼ばれるほど日本人は勤勉で社会のすみずみで自分の役割を果たしている。⑪しかも、日本が (は) 先進国でいながら、おどろくほど節約な (して) 生活するのは中進国の (×) 母国にとっては手本になるはずだ。

⑫最後に、国民の秩序意識だ。⑬例えば、何人が (か) 集まったら、すぐ並んで自分の順番を待つ。⑭これこそ、街をきれいにすることで、高い国民意識を一目で見せてくれるだろう。

⑮このように日本は私にとってはよい印象がたくさんあって第2の故郷といっても過言ではない。⑯日本に対する印象を帰国するまでこのまま維持して帰りたい (という) のが今の気持ちだ。

[接続関係図]

| 文番号 | 接続語句 | 指示語   | 同語反復 | 同義、類義語句の反復  | 助詞、助動詞など | 前後関係   |
|-----|------|-------|------|-------------|----------|--------|
| ①   |      |       |      |             |          |        |
| ②   |      | ○こんな  |      |             |          |        |
| ③   | ○しかし |       |      |             |          |        |
| ④   |      |       |      |             |          | ○はじめに  |
| ⑤   |      |       |      | ○礼儀正しい言葉づかい |          |        |
| ⑥△  |      | △こんな  |      |             |          |        |
| ⑦△  |      |       |      | △やさしい言葉     |          |        |
| ⑧   |      |       |      | ○やさしさ       |          |        |
| ⑨   |      |       |      |             |          | ○次に    |
| ⑩   |      |       |      | ○勤勉         |          |        |
| ⑪   | ○しかも |       |      |             |          |        |
| ⑫   |      |       |      |             |          | ○最後に   |
| ⑬   | ○例えば |       |      |             |          |        |
| ⑭   |      | ○これこそ |      |             |          |        |
| ⑮   |      |       |      |             |          | ○このように |
| ⑯   |      |       |      | ○日本に対する印象   |          |        |

[考察]

全体的に接続関係はうまくいっている。しかし、⑥文の、指示語こんな点、はこの点のほうが良い。また、⑦文は、それまで述べていた礼儀正しさ（礼儀正しい言葉づかい）が、やさしい言葉にかわっているため、やや前文との結束性が弱く感じられる。⑥文と⑦文を入れ替えると、⑧文とも緊密につながる。⑮文は最後の段落の始めの文として、それまでの全体を受けてまとめとしている。

3. 4. 2 学習者B (中国)

①日本に来る前、経済大国である日本のイメージをテレビや雑誌などの間接的なメディアを通していくらか脳裏に印象をうけた（ある程度抱いていた。）②それは、自然に恵まれ、豊かな、住みやすい国だ。

③しかし、去年の4月、初めて、日本の国の出入り口ー成田空港に着いた時、まず、空港の建物のすばらしさ、整った施設とサービスに感動された。(した)④一方、人でごったり(ごったがえし)混雑した状況にあっけにとられた。⑤島国である日本では高密度の人口(多くの人)が住んでいるから、競争性が高い、(く)生活のテンポが速いことが(を)身にしみじみ感じた。

⑥1年間(×)半の留学生活の(を) 過ごし(過ごす)にしたがって、実際の日本社会、日本人と触れ合って、いろいろなことについて、考え(させ)られた。⑦経済大国に置ける日本人はそれ



ほど生活が豊かか。⑧私は何のとまどいもなく、「そうではない」と答える。⑨ただ(×) 高成長率を示した GNP と莫大な貿易黒字(だけ)を見て(みれば)、日本は大金持ちだというしかない(考えられる)。⑩しかし、そんな巨大な金財を国民の生活の改善、公共施設の整備、社会福祉にはちょっとしか使っていないが、一方、株と土地の売買に多量にかけている。⑪バブル経済を遂げた。⑫住宅、医療、教育、老人ホームなどの問題は、ますます深刻化に(×)しつつある。⑬例えば、実際の国民の生活像を(が)代表的に現れているのは、住宅ローンを払うために、家計の補助として、家庭の主婦の夜間アルバイトとパートをすることだ。⑭高齢者の生活保証が問題になって、高齢者の自殺率が高い。⑮以上述べたように、好景気さえそうである。

⑯いま、バブル経済の破壊によって、国民の生活は台所まで影響を与えて(受けて)いる。⑰これからの行方が見えない人々がかなりいるのは(が)現実だ。

[ 接続関係図 ]

| 文番号 | 接続語句 | 指示語  | 同語反復 | 同義、類義語句の反復   | 助詞、助動詞など | 前後関係      |
|-----|------|------|------|--------------|----------|-----------|
| ①   |      |      |      |              |          |           |
| ②   |      | ○それは |      |              |          |           |
| ③△  | △しかし |      |      |              |          |           |
| ④   | ○一方  |      |      |              |          |           |
| ⑤   |      |      |      | ○高密度の人口      |          |           |
| ⑥   |      |      |      |              |          | ○1年半の留學生活 |
| ⑦   |      |      |      | ○経済大国における日本人 |          |           |
| ⑧   |      | ○そう  |      |              |          | ○答える      |
| ⑨   |      |      |      | ○大金持ち        |          |           |
| ⑩   | ○しかし |      |      |              |          |           |
| ⑪×  |      |      |      |              |          |           |
| ⑫×  |      |      |      |              |          |           |
| ⑬   | ○例えば |      |      |              |          |           |
| ⑭×  |      |      |      |              |          |           |
| ⑮△  |      | △そう  |      |              |          | ○以上述べたように |
| ⑯   |      |      |      |              |          | ○いま       |
| ⑰   |      |      |      |              |          | ○これからの行方  |

[ 考察 ]

③文で逆接の接続詞しかし、が使っているが、文の接続関係は逆接ではない。不適當である。

⑩文と⑪文は論理的に接続していない。1文にしてテ形接続にするか、そしてあるいはその結果をいれるとわかりやすい。⑫文はその反面をいれることによって前文とうまく接続する。⑭文は問題点の例の1つであるから⑬文に続けてまたを使って接続してさらに、高齢者の自殺率も、と助詞

もを加えるとより緊密につながる。⑮文の指示語そうの内容も曖昧でわかりにくい。

段落については、⑥文から⑨文までを1つの段落とし、⑮文で新たな段落としたほうがよい。

### 3. 4. 3 学習者C (台湾)

①私は日本に来て、もう2年になった。②日本の文化とか歴史とかすこし理解したと思う。③また(もっと)、細かい所を知りたいとおもっている。④やっぱり日本で生活することは留学生にとって、大変だと思う。

⑤日本の生活は、物価が高いし、賃金(家賃)も高いし、交通費も高いと思う。⑥でも、日本人の生活のレベルがだんだん高くなってきたと思う。⑦私が日本へ来て、一番いい印象は沢山の外国の料理がある(ことだ)。⑧そして、交通がとても便利だし、空気もいいと思う。⑨日本人は服の着かたをよく知っている。⑩いま、日本人は、生活の環境を守ることが上手だと思う。⑪だから、日本の環境は住みやすい。⑫きれいだし、夜は静かになる。⑬現代の工業は発展しているから、いい環境を守りにくい(く)、探しにくい(いい環境は少ない)。⑭昔の日本人は一生懸命働いていた。⑮でも、いまだだんだん変わっている。⑯特に、若者は余暇を重視している。⑰日本人は長い休みの日を利用している。⑱海外旅行とか国内旅行とかいろいろな方法がある。⑲日本人の生活はだいたい台湾と同じと思う。

⑳日本には四季がある。㉑それは私が一番好きな所だ。㉒四季の中で気候とか花とかさまざまな景色がある。㉓日本人にとって、とともしあわせだと思う。

#### [ 接続関係図 ]

| 文番号 | 接続語句 | 指示語 | 同語反復   | 同義、類義語句の反復 | 助詞、助動詞など | 前後関係 |
|-----|------|-----|--------|------------|----------|------|
| ①   |      |     |        |            |          |      |
| ②   |      |     | ○(私)   |            |          |      |
| ③△  | △また  |     |        |            |          |      |
| ④×  |      |     |        |            |          |      |
| ⑤   |      |     |        | ○日本の生活     |          |      |
| ⑥△  | △でも  |     |        |            |          |      |
| ⑦×  |      |     |        |            |          |      |
| ⑧△  | △そして |     |        |            |          |      |
| ⑨×  |      |     |        |            |          |      |
| ⑩×  |      |     |        |            |          |      |
| ⑪   | ○だから |     |        |            |          |      |
| ⑫   |      |     | ○(環境は) |            |          |      |
| ⑬×  |      |     |        |            |          |      |
| ⑭×  |      |     |        |            |          |      |
| ⑮   | ○でも  |     |        |            |          |      |

|    |  |      |  |            |  |     |
|----|--|------|--|------------|--|-----|
| ⑬△ |  |      |  |            |  | △特に |
| ⑭△ |  |      |  | △休みの日を利用   |  |     |
| ⑮  |  |      |  | ○海外旅行、国内旅行 |  |     |
| ⑯× |  |      |  |            |  |     |
| ⑰  |  |      |  |            |  |     |
| ⑱  |  | ○それは |  |            |  |     |
| ⑲  |  |      |  | ○四季の中で     |  |     |
| ⑳  |  |      |  |            |  |     |
| ㉑  |  |      |  |            |  |     |
| ㉒  |  |      |  |            |  |     |
| ㉓  |  |      |  |            |  |     |

[考察]

文間の接続の悪さがめだつ。そのうえ、段落の区切り方もよくない。

①文と②文は、もう2年になり、日本の文化とか…と連用中止で接続したほうがよい。③文の接続詞または、もつとの間違いだと思われる。細かい所もとすれば、前文との結束性が増す。④文からは具体的な日本での生活について述べているので、段落を改める必要がある。その場合、①文の2年をうけて、例えば、2年暮らしてみても、を加えて、やはり……とと思ってたと展開させてもよいだろう。⑥文はむしろ⑤文の前にきて、……だんだん高くなってきたと思う。でも、⑤文とするべきであろう。

⑦文からは特に日本のよい点についてであるから、段落を変えて⑬文までを1つの段落にするほうがわかりやすい。⑧文の接続詞そして、はそれに使って内容を付け加えるほうがよい。⑨⑩⑬文は接続詞などを使って前文とつなげないと、ばらばらな感じがする。

⑭文は段落を変えることによって、日本の生活の1つの違った側面として、文脈は展開していく。⑭文からの段落の中で主語が、⑭日本人-⑯若者-⑰日本人と変わっているので、もう少し内容を整理して書くことも大切だろう。また、⑱文は、前文の内容を持ち込む指示語このような、を使うことによって結束性は保たれる。㉒文は、㉓文と1文にして、さまざまな景色があることは、日本人にとって……とするか又は、日本人にとっても、と助詞もを加えることによって、私-日本人も、という関係をはっきりさせれば、連関係はスムーズになる。

学習者Cの場合、まず、段落意識を明確に持たせること、そのためには内容の整理を行って、文章の展開を組み立てさせることが大切であろう。そのうえで、接続詞や指示語の正しい使い方や同義語、類義語などによる接続の仕方を指導する必要があると考える。

### 3. 4. 4 学習者D (中国)

①「光陰矢の如し」というように、私は(が)日本にきた(て)もうすでに9ヵ月たった。②9ヵ月というのは一生に対して(のうちに)一瞬間である。③しかし、この一瞬間のうちこそ、自分の人生を深刻(真剣)に理解して(考えて)きた。④日本に来たばかりのときに、日本語で話せなかったのが、ちゃんと暮らしていけるかどうか、自信を全然もっていなかった。

⑤現に（今は）日本語ですこし話せるようになってきている。⑥自信もだんだん高まってきた。⑦したがって、日本人との交流させる（もできる）ようになった。⑧私たちは日本にきている（のは）、日本語を勉強するだけではなく、日本社会の文化、歴史、習慣などもよく知らなければならない。⑨一方、日本にきた（て）、もっとも印象が深いことは、都市が自然環境を（に）溶け込み、美しい街、うつくしい建築を作り出している。⑩こうした（こと）は現代社会（の）人々が求めているものである。

⑪また、異国（外国）で生活するのは外国人として、たいへんと思われる。⑫しかも（しかし）、これらは私達の人生に対して（とって）一種貴重な経験じゃ（では）ないだろう（か）。⑬どんな苦しくても、がんばろう。

[ 接続関係図 ]

| 文番号 | 接続語句    | 指示語        | 同語反復 | 同義、類義語句の反復 | 助詞、助動詞など | 前後関係 |
|-----|---------|------------|------|------------|----------|------|
| ①   |         |            |      |            |          |      |
| ②   |         |            | ○9ヵ月 |            |          |      |
| ③   | ○しかし    |            | ○一瞬間 |            |          |      |
| ④×  |         |            |      |            |          |      |
| ⑤   |         |            |      | ○日本語で少し話せる |          |      |
| ⑥   |         |            |      |            | ○自信も     |      |
| ⑦△  | △したがって  |            |      |            |          |      |
| ⑧×  |         |            |      |            |          |      |
| ⑨△  | △一方     |            |      |            |          |      |
| ⑩△  |         | △こうした(こと)は |      |            |          |      |
| ⑪△  | △また     |            |      |            |          |      |
| ⑫△  | △しかも(し) |            |      |            |          |      |
| ⑬△  |         |            |      |            |          |      |

「考察」

表でみると、同義語、類義語の反復による接続は⑤文1つしかない。また、接続語句が正確に使われていない。⑤文は現にではなく、しかし現在は、と逆接にしたほうが、前文との関係が明確になる。⑦文の従っては、接続助詞ののでを使って1文とするか、または、接続詞それででつなげてよいだろう。

⑧文では、接続関係を示す言語形式がないが、⑦文の日本人との交流、という語句を入れて、例えば、日本語を勉強するだけでなく、日本人との交流を通して日本社会のとしてもよい。⑬文も前文との結束性が弱い。そのため、指示語と、同語反復を使って、この貴重な体験を無駄にしないようにどんな（に）苦しくても…とすると、書き手の意思も強調されよう。

この作文のもう1つの問題は段落である。④文は③文との接続関係が弱い、段落を変えること

によって文脈が展開していくこととなる。

#### 4. まとめと今後の課題

文章の結束性について、2文間の接続関係の分析をとおして見てきた。日本人があまり意識せずに行っている文と文の接続も、日本語学習者にとっては作文の問題点の1つとなっていることは明らかである。学習者によっては、2文をつなぐ言語形式を使っていなかったり、接続詞や指示語が使われていてもそれを正しく使っていないものもあった。

ここで、「天声人語」の10日間分の接続関係における言語形式の使用率と、同じく学習者10名の作文「私の出会った日本」の言語形式の、おのおのの使用率を比較してみたい。(%)。

|          | 接続語句 | 指示語  | 同語反復 | 同義、類義語反復 | 助詞  | 前後関係 |
|----------|------|------|------|----------|-----|------|
| 「天声人語」   | 5.3  | 12.7 | 15.1 | 43.3     | 3.7 | 21   |
| 「私の出会った」 | 17.6 | 8.2  | 9.9  | 19.7     | 2   | 19.2 |

学習者は、3. 1の分析の対象で述べた中級レベルの10名（中国、韓国、台湾）の学生である。数は十分とは言えないがある傾向はつかめると思う。この結果を見ると、「天声人語」では、2文の結束性を保つために同義、類義語の反復が最も多く、しかも43%使われているのに対して、日本語学習者は、同義、類義語反復は、「天声人語」ほど使われていない。また、日本語学習者の場合、「天声人語」に比べて接続語句によって、文と文をつなげる方法は比較的使われていると言える。前後関係の割合も学習者の中では高いといえるが、1文の正確さに問題のある学習者にとっては、そのつながりは、弱いものになってしまうということも考えられる。前後関係で学習者によく使われるものは、特に、はじめに、次に…第一に、第二に…などが多く、パターン化されているとも言えよう。さらに、学習者の使用した言語形式の合計は76.6%であり、この点からみても、二文間の結束性に問題のあることがわかる。

どのような形式で文を接続させていくかは、文章の種類、例えば論説文と随筆では違ってこようし、書き手の個人差も当然考えられる。しかし、「天声人語」の顕著な特徴である同義、類義語句の反復の多さは、日本人の一般的な文章にも当てはまると予測できる。この同義・類義語句の反復による文と文の接続は学習者に対する指導の一つである。

作文の授業において、まづ、学習者に文の接続に用いられる言語形式への意識を持たせることが必要である。具体的には、日本人によって、実際に書かれたものを使って、日本語の文の接続がどうなっているのかを見ていくことや、初級レベルでの基本的な文接続の練習をさらに進めて、論理的な文脈展開をめざした接続の練習をとりいれていくべきである。その場合、教師に文章論的分析の観点は不可欠であると考えられる。

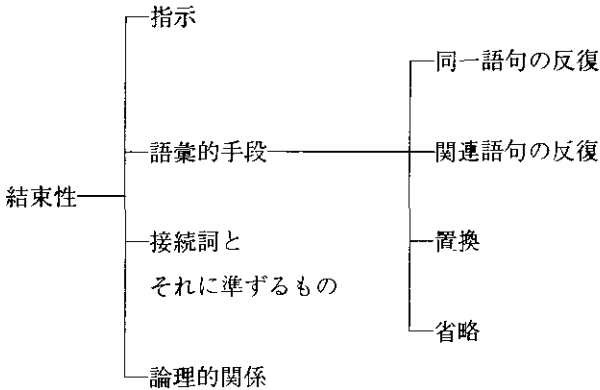
また、日本人の文章では、豊富な語彙の中から、必要な語句を選んで関連した語句を反復しながら

ら文脈を展開させていくことが多く見られるのに対して、語彙の限られた日本語学習者は、この点が困難であることは当然といえる。主要な語句については、事前に同義、類義語句を含めた語彙的な指導をすることも有効であろう。実際の指導への適用と実践が今後の課題である。

さらに今回の分析結果でも、文と文のつながりだけでなく、段落に関しても問題点のあることがわかった。段落を適切に区切ることによって、読み手にとっても文章の展開はわかりやすく展開していく。永野の主要語句の連鎖の観点を取り入れた分析を通しての段落の指導についても今後考えていきたい。

## 注

- 1) 永野賢 (1989) 『文章論総説』朝倉書店 P68参照。
- 2) 池上嘉彦 (1982) 「テキストとテキストの構造」『講話の研究と教育Ⅰ』国立国語研究所 P10,11参照。
- 3) 川島淳夫 (1984) 「テキストの結束性」『エネルギー』第10号によれば、Cohesion という用語は、1962年に初めて M. A. K. Halliday が、その論文の中で用いた。
- 4) 文法論的文章論についての代表的な立場及び文接続論については、佐久間まゆみ (1986) 「文章構造論の構想—連文から文段へ—」『文章論と国語教育』(永野賢編)朝倉書店にまとめられている。
- 5) 時枝誠記 (1950) 『日本文法口語篇』岩波全書 P24に、文章と国語教育との関連について述べられている。
- 6) 金岡孝 (1989) 『文章についての国語学的研究』明治書院 P191参照。また森田良行 (1989) 「連文型」『講話の研究と教育Ⅱ』国立国語研究所 P139にも意味面からの分析の必要性が述べられている。
- 7) 森田 (1989) 「連文型」 P164参照。
- 8) 永野編 (1986) 『文章論と国語教育』朝倉書店 実践報告参照。
- 9) 永野 (1989) 第3章第2節参照。
- 10) 市川孝 (1978) 『文章論概説』教育出版 P58 ここでは、論理的に関係づける形式として接続語句を、内容のうえから両者を関係づける形式として指示語や同一語句、同義同類語句などいわゆる繰り返し語句を考えている。
- 11) 池上 (1982) では、結束性を支えるものとして、指示、置換と省略、語彙的手段によるもの、接続詞とそれに準ずるものとし、置換、省略と同一語句、関連語句を区別しているが、本稿ではそれらを一つとする。
- 12) 「結束性と日本語教育」『研究報告集3』
- 13) 飯島昭治 (1986) 「結束性と日本語教育」『研究報告集3』による分類表



### その他参考文献

1. 相原林司 (1987) 「接続語句と文章の展開」『日本語学』6-9 明治書院
2. アンドレイ・ベケシュ (1987) 「日本語におけるコヒージョンの実験的研究」『テキストとシンタクス』くろしお出版
3. 井上尚美・大熊徹 (1990) 『授業に役立つ文章論・文体論』教育出版
4. 大内善一 (1986) 「作文教育基礎理論としての文章論」『文章論と国語教育』(永野賢編) 朝倉書店
5. 大熊徹 (1986) 「文章論的作文教育試論—作文指導の課題と主要語句の連鎖—」『文章論と国語教育』
6. 佐久間まゆみ (1992) 「文章と文一段の文脈の統括」『日本語学』11-4 明治書院
7. 高崎みどり (1988) 「文章展開における指示語句の機能」『言語と文芸』103 (大塚国語国文学会) 桜楓社
8. 西田直敏 (1992) 『文章・文体・表現の研究』 和泉書院
9. 森岡健二 (1981) 『文章構成法』 誠文堂
10. 馬場俊臣 (1992) 「指示語の文脈展開機能」『日本語学』11-4
11. ——— (1986) 「『主要語句の連鎖』と『反復語句』との交渉」『文章論と国語教育』
12. ——— (1989) 「原文と要約文の反復語句」佐久間まゆみ編『文章構造と要約文の諸相』くろしお出版
13. R. D. ボウグランド W. ドレスラー (1984) 『テキスト言語学入門』 紀伊国屋書店